

140 万の観光資源

興南学園興南中学校

3 年生 水野 零央

皆さんは 1 年間でどれくらいの方が沖縄県に観光に訪れているのかご存知ですか。昨年度、沖縄県を訪れた観光客数は千万人近くにもなりました。これは沖縄県の人口の約七倍にもなる数字です。なぜこれほど多くの人たちが、私たちの募らす沖縄を訪れたいと思うのでしょうか。観光パンフレットを開いてみると、白い砂浜が広がる美しい海、亜熱帯の豊かな自然、本土では珍しい食文化、そして代表的建築物でもある首里城など、そこには魅力ある沖縄の観光資源がぎっしりつまっています。

私の通う興南中学校では、沖縄を代表する観光地である首里城のガイドを行う「興南アクト部」という部活動があります。私はその部員として、毎年、県外から修学旅行で沖縄を訪れる中高生たちに首里城ガイドを行っています。中学・高校合わせて四十名以上の部員の中には、もともと首里城が大好きという生徒もいれば、私のように他県の生徒たちとの交流がなんとなく面白そうだなと思って入部した生徒たちもいます。

私たちの首里城ガイドは、一生に一度の修学旅行という大切な時間を使わせてもらって行なっています。だからガイドをする前は、とても緊張するし、間違っはいけないというプレッシャーも感じます。首里城にはプロのガイドさんもいる中で、私たちのガイドを申し込んでくれた人たちのために、私たちにしかできない最高のおもてなしをしたいと思っています。だから、沖縄について学んだり、現地でガイド研修を行ったり、自分たちの成長のために日々取り組んでいます。

私自身、この活動をする前は、首里城といえば観光パンフレットに載っているような「朱く、そびえ立つ正殿」のイメージしかありませんでした。しかし、ガイドを始めると、その正殿にたどり着くまでの道のりにも、守礼門から始まり園比屋武御嶽石門や漏刻門などの様々な役割をもった門、教科書にも出てくる万国津梁の鐘、首里城発祥の地ともいわれる首里森御嶽など、興味深い多くの文化財があることを知りました。その一つ一つを学んでいくことで、当時の人々の生活や首里城に込められた人々の思いなどを知ることができ、今までとは違った首里城を知ることができました。そうした経験を重ねるごとに、私はどんどん首里城の持つ魅力にひかれていきました。

だからこそ、残念な気持ちになることがあります。ガイド研修などで首里城を訪れたとき、多くの修学旅行生の集団に出会います。ほとんどの生徒たちが、友達同士の会話に夢中になりながら歩いている姿を見ると、せっかく首里城に来ているのだったら、もっとこの城の魅力を知ってほしいなと思ってしまいます。私も中学二年生の時に修学旅行で、日本を代表する観光地である京都を訪れました。友人たちとたくさん名所をまわりましたが、そこで見た風景はなんとなく覚えているものの、京都の歴史やそこに暮らす人たちが作り上げた文

化などくわしいことは分かりませんでした。同じように沖縄を訪れる修学旅行生たちも、首里城の見学が一番の楽しみにしている生徒はそれほど多くないかもしれません。しかし、そんな首里城が一番の思い出になり、また来たいと言ってくれるようなガイドをしたいと思います。

首里城ガイドはとても緊張するし、うまくいかないこともたくさんあります。ただ、それでも私がガイドを続けている理由は、やっぱり首里城が好きだし、何より人との交流が楽しいからです。自分の好きな首里城のことを自分の言葉で伝え、誰かに共感してもらえた時、とてもうれしく、そして誇らしくも感じます。もちろん私の説明はプロのガイドさんよりも上手くないし、まだまだ知識も足りません。しかし、きっと私たちだからできるガイドの形もあるはずです。どうすれば皆に首里城での時間をより楽しく、より身近に感じてもらえるだろうかを考え、ガイドの工夫をするようにもなりました。例えば、首里城正殿の高さは約十八メートルもあるのですが、説明の際には「首里城の正殿の高さは、なんと、うまい棒百四十四本分つなげた長さがあります」と付け加えるようにしました。そうすることで修学旅行生たちが興味を持ってくれたり、笑顔を見せてくれたりする瞬間、とてもうれしい気持ちになります。その他にも、首里城クイズを作って考えてもらったり、絵などを使って少しでも説明を分かりやすくしたり、どうやったら修学旅行生に興味をもって聞いてもらえるか、工夫しながら私自身も楽しんでます。私たちと修学旅行生とはお互い同世代なので、気軽に話すことができます。今まで友達との会話に夢中になっていた首里城見学の時間を、私たちアクト部との交流に夢中になってほしいなと思います。

首里城ガイドを始めて三年目になった今年、とてもうれしい出来事がありました。毎年、続けてきた広島の中学校との交流が、今年は私たちの学校行事と重なり、受け入れられなくなりました。すると、その学校は「興南アクト部との交流が修学旅行の大きな目的になっている」ということで、修学旅行の日程をわざわざ変更してくれたと顧問の先生から聞きました。私はとてもうれしいと同時に、今年も責任感をもって頑張ろうという気持ちになりました。

今まで旅行といえば、有名な観光地を見に行くことだと考えていました。しかし、私たちとの出会いを大切な目的にしてくれている人たちがいる。この場所に暮らす私たち一人ひとりが、沖縄のもつ魅力のひとつなんだと教えられました。「未来の沖縄の観光」それは、百四十万もの魅力と出会える島。

めんそーれ沖縄！